

《お願い》今回送付の「在京白堊会会報」第37号は「転送不要」での配達とさせていただきました。会員の住所変更を把握するためです。戻ってきた郵便物については、転居届連絡はがきを封入して再送させていただきます。

〈2014年度在京白堊会クラブ活動スケジュール〉

- 10月24日(金)「在京白堊会ゴルフ大会」
(会場:ザ・ゴルフクラブ竜ヶ崎/茨城県龍ヶ崎市)〈8面〉
- 11月8日(土)「ル・サロン・ブラン」(芸術鑑賞クラブ)
(古河・篆刻美術館を訪ねる)(場所:茨城県古河市)〈1面〉
- 12月8日(月)-13日(土)「白堊芸術祭」
(会場:文房堂ギャラリー/千代田区神田神保町)〈1面〉
- 12月13日(土)「白堊歌会」
(宮沢賢治と五行歌の朗誦会:文房堂ギャラリー)〈8面〉
- 平成27年2月15日(日)「歌の祭り」
(会場:渋谷区笹塚/Blue - T(ブルーティ))〈2面〉

※ご質問、お問い合わせは事務局 03-6404-6379 へお気軽にどうぞ。



文房堂ギャラリー

〒101-0051
千代田区神田神保町1-21-1
文房堂ビル4F
Tel: 03-5282-7941
(会場直通:会期中のみ使用可能)
Tel: 03-3291-3445
(ギャラリー事務所)
<http://www.bumpodo.co.jp/>
*ギャラリーへはエレベーターを利用。
(アクセス)「神保町」駅(東京メトロ半蔵門線、都営三田線、新宿線)A7出口、徒歩3分/JR「御茶ノ水」駅御茶ノ水橋口、徒歩10分

2014白堊芸術祭

年末恒例「白堊芸術祭」でお会いしましよう

12月8日(月)～13日(土) 文房堂

(神田神保町)

第7回「白堊芸術祭」は、会場が広くてゆったりくつろげると大好評だった昨年と同じ文房堂(ぶんぽうどう／神田神保町)を会場に開催します。昨年は絵画・書・彫刻・写真・歌唱など約60名の出展・出演がありました。が、スペースにはまだ十分に余裕がありました。多くの皆様のご出展ご出演ご来場をお待ちしております。

「白堊芸術祭」は、いわば在京白堊会の文化祭。絵や書、彫刻に限らず、写真や歌唱、演奏、舞踊など、あなたの一芸で参加できます。「白堊芸術祭」の主役はあなた。この機会にぜひ、

▼開催日 平成26年12月8日(月)
～13日(土) 11:00～18:30(最終日は15:00)※搬入は12月7日(日) 10:00から。

開催概要

▼会場 文房堂ギャラリー(上記)

▼出展料 一人2千円(2点まで)。2点以上は1点に付き、プラス1千円。グループ展出展料もこれに準じます。イベントは1時間2千円(準備撤収時間含)。

▼申込締切 11月9日(日)。

▼申込&問合先 三浦千波さん(S50卒)。〒211-0035 川崎市中原区井田2の15の50 電話(044)797-2170

※なお、詳細は申込み締切り後

各出展(出演)者にご案内します。

▼開催日・集合場所 平成26年11月8日(土) 10:30 JR古河駅集合
▼交通 JR新宿駅9:25発→JR古河着10:23着(JR湘南新宿ライン直通が便利。時間はご確認下さい)
▼申込締切 平成26年10月20日(月)明記の上、佐藤法雄さん(S50卒・FAX(042)322-3950/yousei.s112@ezweb.ne.jp)まで。

開催概要

平成12年に実施し好評だった古河市の篆刻美術館を訪問。企画展「江戸時代の印譜」日本近人印譜」を鑑賞後、篆刻実技体験として篆書に使用する程度の小印を製作します。

在京白堊会会報

第37号

平成26年9月20日

発行

岩手県立盛岡第一高等学校在京同窓会
在京白堊会
(事務局)
〒143-0015 東京都大田区
大森西2-17-4-201
TEL (03) 6404-6379
FAX 直通 (03) 6404-6379*00
E-mail: hakua_office@pmp.jp.com
(<http://www.hakua.org/tokyo/>)
題字: 浅沼 一道
※今年度から新事務局となりました。



17:00から懇親会を行います。会費は4000円程度(会場未定)。会員は申込み締切り後



前回大好評の篆刻実技体験(2012.11.10)を再度実施。道具はすべて幹事が用意してくれる

お願い
平成26年度在京白堊会会費未納の方は、同封の振替用紙にて年会費2,000円のお振込みをお願いいたします。
なお、お支払い済みの方に振替用紙が届きましたら、ご容赦下さい。

11月8日(土) 篆刻美術館で実技体験!
ル・サロン・ブラン

役員人事

新会長・内村泰氏 (S39卒)
新事務局長・藤井則夫氏 (S47卒)

役員人事が一新されました

本年5月10日(土)に開催された第46回在京白堊会総会で、新役員人事が承認され、人事が一新されました。



馬場信前会長からバトンタッチした内村泰新会長(左)

新会長に選任されたのは、内村泰さん(S39卒)です。内村さんは、平成17年から8年間会長を務められた馬場信さん(S41卒)を副会長として補佐してきました。在京白堊会愛で、これまでの活動を継承し、力強くリードしていただけるものと期待しております。

副会長は会長に昇格した内村さん、戸来ソウ子さん(S40卒)に代わって戸田純さん(S48卒)、三浦千波さん(S50卒)が新たに就任しました。事務局長も山田武秋(S42卒)から藤井則夫さん(S47卒)に



(写真上) 右から副会長・戸田純さん、同・三浦千波さん、事務局長・藤井則夫さん、事務局次長・木村忠文さん。
(写真左上) 右から会計・佐々木貴司さん、事務局次長・水原滋さん。
(写真左) 馬場信前会長、戸来ソウ子前副会長にお礼のケーキ贈呈(2014.4.17開催の幹事会)

●正副会長その他役員	会長 内村 泰 (S39卒)
●監査	副会長 戸田 純 (S48卒)
会計	三浦 千波 (S50卒)
●事務局関係	岩瀬 佐千世 (S48卒)
事務局長	佐々木貴司 (S56卒)
事務局次長	藤井則夫 (S47卒)
●常任幹事	水原 滋 (S50卒)
事務局次長 (H.P担当)	(名簿担当) 木村忠文 (S54卒)

代わり、それに伴つて事務局も代わりました(新事務局住所、電話、メールアドレスは本紙一面題字下をご参照下さい)。藤井さんはITの専門家で、新たに事務局次長になられた木村忠文さん(S54卒)とのタッグで、在京白堊会のIT化は格段に強化されますのでご期待下さい。

また、今回から会則改正により新たに会計が新設され、初代会計に佐々木貴司さん(S56卒)が就任しました。

新執行部には、在京白堊会のより一層の発展のためにご尽力下さいますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

なお、新執行部は以下の通りです。

在京白堊レディス会
6月21日(土)開催

第10回在京白堊レディス会が6月21日(土)、銀座の「SUN-mi高松7丁目店」にて開催されました。出席者は17名。そのうち初参加は2名でした。今年はゲスト講師に、5月まで在京白堊会会長であった馬場信さん(S41卒)をお迎えして、今年もまた、今年同様に行う予定です。

「接客がものづくりを支える接客とは何か」というテーマでお話していただきました。接客の進歩が建築や造船・自動車製造など、あらゆる製造業に貢献しているというお話はとても興味深いものでした。

来年もまた、今年同様に行う予定です。



2014年8月3日開催の「第11回 歌の祭り」参加者

第11回「歌の祭り」は8月3日(日)渋谷区笹塚の中国茶レストラン「ブルーティ」にて次会は来年2月15日(日)開催されました。

次回、第12回「歌の祭り」開催は平成27年2月15日(日)。詳細の問合せ・申込みは大内秀之(S35卒・電話&Fax:03-3315)まで。申込み締切りは平成26年11月30日(日)。

2014 総会報告

おらほの一高、いまむかし ～お気に入りの応援歌は！～

日時…平成26年5月10日(土)

講演会15:00～、総会・懇親会16:00～

会場…東京ガーデンパレス(御茶ノ水)

平成26年5月10日(土)、東京ガーデンパレスにて、五月

晴れの中、第46回在京白聖会総会が開催されました。今年は320名の方にお越しいただき、昨年に続いて大変な盛況となりました。当日は来賓として、盛岡一高の高橋廣至校長、恩師として、山田預喜先生、石田 淳先生、佐藤三樹夫先

生にご臨席を賜りました。

総会に先立つ記念講演会で

は、東和中学校校長 西郷晃さん(S57年卒)が「いわてス

パーキッズ発掘・育成事業の取

り組み」として若手スポーツ選

手育成について講演、さらに国

立音楽大学附属中・高校講師、

菊池大成さんがピアノ演奏を行

い、大好評を博しました。



総会風景



(写真下) 講師の西郷晃さんがプレゼンターを務めた「お楽しみ抽選会」



(写真上) 応援歌の人気ランキング投票では、第二応援歌が第1位に選ばれた



懇親会風景



来年の総会幹事を担当する58年卒の皆さん

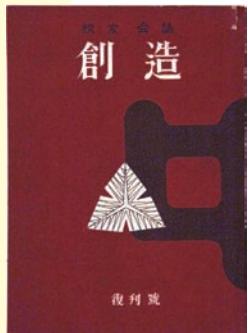


今年の幹事団(57年卒の皆さん)に感謝のエール

石川啄木と折口信夫

（巽会顧問）にご提供いただき
きました。執筆者に在京会員
佐々木則雄さん（S24卒・当
高3）・村山豊さん（S26卒・当
時高1）のお名前が見えます。
折口信夫のこの評論は『折
口信夫全集』（新版第30巻・
1997年・中央公論社）に収録
されていますが、校訂が入った全
集版とは表記の異なる掲載当時
の全文をここに再録しました。

校友会誌復刊号に掲載された
折口信夫の啄木講演録



石川啄木から出て

文学博士
折口信夫

今日は諸君の大先輩であります情熱の詩人石川啄木の事について少しお話してみたいと思います。私は若い頃金田一京助先生に最も早く言語学をおそはりました。

1

を受けた歌人（新超空）として有名です。『一握の砂』刊行100年にあたる2010年に、石川啄木記念館で彼が評訳を書き入れた『一握の砂』が公開され、ご覧なった方も多いと思います。

折口信夫は、昭和23年5月5日に母校（この年、旧制盛岡中学が廃止され岩手県立盛岡第一高等学 校となる）で講演し、その講演録が翌24年5月1日に復刊された校 友会誌『創造』に掲載されました。

盛岡中学校校友会雑誌の第一号は明治33（1900）年に発刊され、

石川啄木は第九号に評論「林中書」
(明治40年3月)、第一〇号に評論
「握の砂」(明治40年9月)を発
表しています。

啄木は小説も書いていたのですが大したものはないなかつた様です。一体に啄木はどの方面の文學に於いても成功はしなかつた様ですが、ある点から言つて文學者が個事作物に成功すると言つことは、大したことではない時もあるのです。歌方面について言つてよいことは、啄木の歌に、自身の物がよいというより、多くの後続のよい歌人を出したという所に、その偉さがあつた。諸君の良く知つてゐる歌は、「盛岡の中学校のバルコンの手すりにも一度我を寄らしめ。」

年が違うので彼の感する所は私には解らない。しかしそれに拘らずこの歌を見ると何か驚かされるものがある、と云う様な事が書いてある。文学は子供に良くわかると同時に、年長者にもよく分る様にせねばならないが、そうかと云つて、諸君に解る文学が、赤ん坊にわかると云うことではない。あなた方よりずっと教養の低い人々も、何の困難なく理解出来る筈はない。

は、くみとれるのです。
これを読んで、文学的である
か否かについては昔風の人なら
ら、こんなのは歌でないと考
えます。ところが、今の歌では
そういう考え方はしません。昔
の人は文学は必ず美しくなければ
ならぬと思つていたのです。今迄反省したことのないよ
うなことを反省するのは、其だけ
人間を一段高い処に上げること
になります。啄木は昔の人の
いう文学的要素には欠けていた

おもて見ると、これに笑っていいで
がないと考えさせる事もある。
若いあなた達には、どう云う経
験はないかも知れないが、我々
にはよくあります。

日本の文学には、始めはたゞ
おかしいと思つたものが、良く
考えて見ると、自分も笑つて居
る事が出来なくなる。例えば芭
蕉の句などにも、ちよつと見て
は面白いが、よく考へると、寂
しい感じのするものがあります
。啄木も、そう言う歌を作つ
てゐる間に、眞面目な歌をつく
る様になつた。自分の経験を

啄木の少年時代或いは彼の青年時代の感激にひたりたいと云う様な心で歌つたものですから、その歌に於ける啄木の心持ちは、少青年時代にある諸君の心に、そのまま受け入れられることがあるでしょう。

啄木の歌は、世間でもてはやされているが、あなた方にはどうが良いか解らないがともかく、それを読んで見ると驚かされると云うやうなものが多いでしよう。「握の砂」の序文を

若い諸君達にもよく解る歌である。諸君達は若いのでその若さにまかせて、色々悪ふざけをす。る。暴れるなどしますが、ほんとうに悪い人はありません。大人はぬぐつてもぬぐいきれない悪いことをしていることもないことは言えない。後になつて想い出すと恥かしくて、再びしたくないと思う。自分で自分のした事を恥じる。それは古い足袋をはくと何となく冷い油にしみてゐる、何かしらぞつとする様なのを歌に言つています。

又それがどうまかつた。うまい筈で先輩の作風を巧みに真似たものが多かつた。若い時の啄木だからです。しかし其後北海道まで転々と放浪の旅を続けて、短時日に大変苦労をした。その為人間が早くできあがりました。又彼はおもしろい俳諧歌などいふものをこしらへた。これはおかしな歌である。彼は、木下本太郎という私の友人と、面白い歌をつくつて人を笑わせようとした。その面白い歌のかげには人間の痛いところをついている

とが多かつた。
「よござれたる足袋はくときの
氣味わるき想いに似たる思い出

がもつと大事なものを持つていって良く解る歌を読んだ。啄木は、あなた方とは関係が深いので精

笑つてゐるが、その中に何とも言えない厳肅感が出て來た。我々の人生には、笑つてすまることばかりあるのではあります。啄木は、皆に共通な感情を歌としたのです。彼が初めの頃つくつた人を笑わせる様な歌を見て、あなた達は啄木の歌は面白いと思つてゐるでしようが、その中のある物が、自分の厳肅な気持と、通ずるもの、あることを考えられる事があるでしよう。人生を反省する力がある。思ひがけない所から、われくの生活の真の姿が示されて來る。それは文学の効能であるが、それがなければ、文学は遊戯であると思います。今迄の人の文学が遊戯的であつたのは、この効果がなかつた為である。次にあなた方が読んで気持にしつくりとする歌として、「東海の小島の磯の白砂に吾れ泣き濡れて蟹と戯むる。」この歌は、調子の高いものと感じられている様ですが、誇張がしてある。青年の悲しみの上に、文学らしい条件を空想して、付け加えている。啄木は片方には、ふざけた歌をつくつて來ていたが、だんだん、真面目と、不真面目の境界がつかなくなつた。そして、啄木は自然と、落着いた歌をつくる様になつた。

「ふるさとの山に向かひて言

ふことなし、ふるさとの山はありがたきかな。」此の頃になると、啄木には、嘘通じて、却て我々の気持に触れ始めたのです。此れより人々もかけねもなく、如何にも、その心の底にある厳肅感がやさしさに充ちた調で表現せられて來た。

此の歌をよむと、岩手山の麓に暮す者は、啄木ならずとも、この歌は皆の共通の感じを適切にうたつてゐる。悲しいか嬉しかばは歌つて居ないが、自然にいかは衿を正す様な気持になる。これは啄木の歌の「質」が良いからであります。其が文学の持つ「正しさ」です。啄木はだんく歌は、短いものだが、他の大文学と違わない純な人の心を動かす様になりました。

「高き山の頂に登り何かなし帽子を振りて下りきしかな。」私はこれを読んで、啄木ははじめて完成に達したと考えました。諸君達は、何にも感じないかも知れませんが、昔はこの様な歌を作るものはなかつたのです。私共の若い頃は、こんな歌は意味のないものと考えられました。其にもかゝはらず、唯美しく、唯悲しく、或はそんなことに関係ない悲しい時も、楽しい時も、おなじ調子のなだらかな歌をよくべきものだと考えたことも、久しい習慣だ。

「かすが野に若菜をつめば我乍ら昔人の心ちこそすれ。」私はこれを読んで、啄木にはじめで、かう言ふ所まで抜け出で來るのです。啄木に到るまでの間に、歌はいろいろな歴史を経て來ました。さう言ふ歌に、人生もなく、又は、その個性など言ふものもありません。今の木は、色々な歌を歌つています。そうして、かう言ふ所まで抜け出で來るのです。啄木に到るままで、歌はいろいろな歴史をつづけて書かれてゐます。鐵幹の歌は、自分の心の動きを示す。鐵幹の歌と意味はほとんど同じであるが、感激は全然違つてゐるのです。鐵幹の歌は、自分の心地が自分であつて、昔の人の心地がする云う意味です。鐵幹の歌は、人生もなく、又は、その個性など言ふものもありません。今の木は、色々な歌を歌つています。鐵幹の歌は、自分の心の動きを示す。鐵幹の歌と意味はほとんど同じであるが、感激は全然違つてゐるのです。鐵幹の歌は、自分の心地が

かつた。しかし啄木は平凡なものを題材に採つてそれをこなして、却て我々の気持に触れたのです。此の歌と啄木の足袋の歌とは大変違つてゐる事がおわかりでしょう。江戸時代末期の歌人であつた香川景樹の歌に、

「かすが野に若菜をつめば我乍ら昔人の心ちこそすれ。」

と云うのがあります。この歌は、人生もなく、又は、その個性など言ふものもありません。今の木は、色々な歌を歌つています。鐵幹の歌は、自分の心の動きを示す。鐵幹の歌と意味はほとんど同じであるが、感激は全然違つてゐるのです。鐵幹の歌は、自分の心地がする云う意味です。鐵幹の歌と意味はほとんど同じであるが、感激は全然違つてゐるのです。鐵幹の歌は、自分の心地が

かづかんだ事が、適切に表わされるかと云う問題になる。一つの思想を表すには、一つの文章よりないと云う理想は誰でも持つます。苦しんでいるうちに、知らず知らずのうちに、達した啄木は、色々な歌を歌つています。そうして、かう言ふ所まで抜け出で來るのです。啄木に到るまでの間に、歌はいろいろな歴史を経て來ました。さう言ふ歌に、人生もなく、又は、その個性など言ふものもありません。今の木は、色々な歌を歌つています。鐵幹の歌は、自分の心の動きを示す。鐵幹の歌と意味はほとんど同じであるが、感激は全然違つてゐるのです。鐵幹の歌は、自分の心地がする云う意味です。鐵幹の歌と意味はほとんど同じであるが、感激は全然違つてゐるのです。鐵幹の歌は、自分の心地が

「引馬野の木の芽はりはら入り乱れ春日くらすは昔人かも。」

相当にい、歌です。

歌は簡単だが、かうして思つて、表し方が皆違います。何故そうなるのか、如何にすれば我々のつかんだ事が、適切に表わされるかと云う問題になる。一つの思想を表すには、一つの文章よりないと云う理想は誰でも持つます。だが、これは、空想です。諸君も練りに練つて、これしか書けないと云うところ迄つきつめて書くやうにならねばなりません。現実に、自分たちの考え方どおりにゆかないでも、どんな方面でも、厳肅な気持であたらなければなりません。心にたるみをもつて、文を書くと読む人にもたるみが出来て、罪悪感を持たせる。しかし幸に諸君達は目前に、立派な先輩石川啄木を持っています。その歌を見る事は、啄木を通じて諸君の生活を説明してもらう事である。君達には長い将来があります。(昭和二十三年五月五日於本校講堂)

◆折口信夫先生略歴!!

明治廿年大阪に生れる。同四十三年国学院大学卒業。歌人筆名秋道空、歌集「海山のあひだ」その他、民族学国文学者、著書「口譯萬葉集」三巻「萬葉辭典」「古代研究」その他現在国学院太学教授、慶應大学教授

(注)著書名以外、旧漢字は新漢字に改めました。また、明らかな誤植はこれを正しましたが、校訂を経た「折口信夫全集」と異なる表記は「校友会誌」に從いました。







集合写真撮影：猪原秀己 (S57卒)

(写真左) 本年度総会幹事、57年卒の皆さんの総会終了後の打ち上げ風景。晴れ晴れとした皆さんの表情が印象的です。
1年間、ほんとうにありがとうございました。

在京白堊会ゴルフ大会

10月24日(金) | ザ・ゴルフクラブ竜ヶ崎にて

第12回 在京白堊会ゴルフ大会を開催します。ルール、表彰は従来通り。対抗戦、個人戦を行います。東京駅→会場間の送迎バスもあります。

開催概要

▼開催日…平成26年10月24日(金)
▼場所…ザ・ゴルフクラブ竜ヶ崎
▼スタート時間&募集組数…9:15~15:00 OUT/IN各3組 計6組

▼料金…14,800円(キャディ付。含。昼食・懇親会オードブル4品)
▼参加費…3,000円
▼送迎バス…東京駅から往復バスをチャーター(往復3,500円。7:00頃出発予定)

▼申込み先及び申込み締

切り…①氏名②卒業年次③連絡住所&電話番号④チームの場合代表者氏名⑤送迎バス利用の有無を明記の上、10月3日(金)までに本年の担当幹事(前年優勝チーム)までメール・FAX・郵送でご連絡ください。先着順とします。

▼本年の担当幹事…石井充 (S42卒) 〒156-0054 世田谷区桜丘2の24の11。
(FAX) 03-3427-9692
(メール) atsushi_ishi@to-kan.co.jp

※大会詳細は、参加申込者に後日郵送いたします。

白堊歌会

12月13日(土) |

野口田鶴子さんの朗読会

白堊歌会は、恒例の野口田鶴子さん (S40卒) による富澤賢治&五行歌の朗読会を、今年も白堊芸術祭最終日の12月13日(土) 13:00から開催します。

白堊歌会 (ネット歌会にリニューアルしました)

鳥居のかなたは海
ここは出雲の岬
茜空の向こうへ
昭和の残党
二人で行かな
八十若 (S22卒・小山達雄)

新緑の匂いを含んだ
春の風が編んだ
桜の花筵の上で
戯れる小鳥たち
春の陽射しを
楽しんでいる
伊奈 裕 (S38卒・稻垣裕雄)

春の陽に
まどろむ娘の
横顔を
幼い日の面影
重ねつつ見る
吉田美雅子 (S45卒)

白堊五行歌会は、名称を「白堊歌会」に変更し、代表が星邦彦さんに交代、ネット中心の歌会にリニューアルしました。五行歌だけではなく、短歌、俳句、川柳など、どなたでも自由に投稿できます。「白堊歌会」のネット投稿は下記URLからできます。
<http://9324.teacup.com/gogyouka/bbs/>

(編集後記) 今年、会長から事務局まで「新されました。新しい風にご期待下さい。今号の目玉は、昭和24年、復刊された校友会誌に掲載された折口信夫の「石川啄木から出て」と題する講演録の再録です。読書の秋、改めて母校先輩の偉大さに触れていただければ幸いです。

ア・ラ・カルト

● 鈴木文彦さん (S40卒) 編集
『錢形平次捕物控傑作選』刊行

野村胡堂の傑作『錢形平次捕物控』紫波町出身でM35卒の大先輩、40卒。第3巻の刊行の総緝を書いた鈴木さんの解説も必読です。



文春文庫『錢形平次捕物控傑作選』
(1) (2) (3) 各490円+税

● 伊東明子さん (S50卒)
女流画家協会「第68回展」入選
画家協会の今年度公募展に入選しました。同展は全国規模の公募展で、新人の登竜門として有名です。

(編集後記) 今年、会長から事務局まで「新されました。新しい風にご期待下さい。今号の目玉は、昭和24年、復刊された校友会誌に掲載された折口信夫の「石川啄木から出て」と題する講演録の再録です。読書の秋、改めて母校先輩の偉大さに触れていただければ幸いです。